

地域の誰もが活用できる「居場所」を創り、守っていききたい



鈴木 軍平さん
(NPO法人・居場所創造プロジェクト 理事長)

地域住民のニーズを考えて、催事などを企画・運営している

NPO法人・居場所創造プロジェクトは、高齢者が頼りにされ、様々な世代の人たちをつなぐ存在になることを目指し、地域住民が中心になって運営しています。

活動は、カフェ運営を基礎に、憩いの場の提供と地域環境向上のための取り組みを「居場所ハウス」を拠点に行っています。

スタッフは、行事の企画・運営のほか、それぞれの得意分野を生かし、調理や農作業等に携わっています。保育士や教員経験者による、子どもの見守り活動、遊び場の提供

なども行っています。

催事内容は、居場所ハウスの利用者の声を参考に、毎月定例会議で決定しています。長年統している朝市や健康サロン等は、この会議により生まれた人気の催しものです。

また、社会福祉法人のバスを借り、無料で行っている買い物送迎バスの運行も、地域住民の「車を運転できない」「バス停や駅から自宅まで距離がある」という声から企画し、取り組んだもので、利用者から好評を得ています。

地域住民とスタッフが生き生き活動する「居場所」を守る

復興期間を経過し、資金とスタッフの確保等、運営面での苦労があります。

しかし、スタッフが各々の得意分野で生き生きと活動し、また、地域の人が居場所ハウスに集まり、賑やかに楽しんでいるのを見て、少しずつこの場所が、地域の人のための「居場所」になっていると実感しています。

だから、この居場所を守り続けたいと考えています。

常に次世代につなぐことを考え、遺憾なく地力発揮できる街に



千葉 隆治さん
(株式会社キャッセン大船渡まちづくりプロデューサー)

中心市街地の核の賑わい創出を担うまちづくり会社

キャッセン大船渡は、震災で被災した大船渡駅周辺地区の持続的な賑わい創出や景観保全、商業の活性化などの「エリアマネジメント」を担うまちづくり会社で、官民出資のもと発足しました。主な役割は、都市再生推進法人として、9つの街区の事業者様からの資金を活用した、エリア内の建物壁面、植栽、サインなど

景観の統一化と維持管理、エリア全体の誘客やプロモーション活動などによるまちの活性化です。このほか商業施設の整備運営も担っています。

これからのまちづくりを担い、関わる人づくり

さらに「大船渡まちもり大学」を大船渡市民活動支援センターとともに設立。高校生も積極的に参画する形で、まちに活力を生む活動にトライしています。進学などで離れても未来の担い手がまちに関わりたと思う「入口づくり」を続けていきます。

商業施設の店主さんらと対話すると、震災前から培った経験の豊かさに触れることも多く、世代のつなぎ合わせも大切だと感じます。震災から10年が経過し、



NPO法人・居場所創造プロジェクトHP



毎週水曜日に開催されている「居場所健康サロン」 体操や脳活ゲームの後、お茶を飲みながら楽しく語らう参加者

人口減少が進み関係人口も一層重要となる中、「大船渡だから関わる」との思いを抱いてももらえるように挑戦と検証を重ねていきたいです。「まちの地力」を遺憾なく発揮できるように、常に次世代へのバトンの継承を念頭に取り組んでいきます。



株式会社キャッセン大船渡HP ※「防災×観光」をゲームにした「あの日」もチェック！



青年会議所とまちもり大学に参加している高校生の共催によるイベント「ウォータースプラッシュ」